

水田雑草コウキヤガラの効果的な防除対策

【1 成果の概要】

- (1) コウキヤガラの防除は、有効成分として、ピラクロニルやALS阻害剤を含む除草剤が有効です。また、収穫後の秋耕起も、次年度のコウキヤガラの発生を抑制することから有効です。
- (2) コウキヤガラの前年の発生程度に応じて、有効成分を含む除草剤の散布と秋耕起を組み合わせることで効果的な防除対策が可能です（下表）。
- (3) なお、残草した場合は、中干前までにベンタゾンを含む剤で追加防除を行います。



図 コウキヤガラの多発生ほ場
右下は、コウキヤガラを拡大した写真です。

○コウキヤガラとは

コウキヤガラは、カヤツリグサ科の多年生植物。干拓田など、沿岸地域の水田に発生します。県内では、沿岸被災地の復旧水田で多発生しています。塊茎でも繁殖する難防除雑草で、多発生ほ場では水稻の収量が大幅に減収します。

表 コウキヤガラの発生程度に応じた防除対策

前年の発生程度*		当年の薬剤防除	耕種的防除	次年度体系処理の要否
無 ～少	無発生もしくは水口、畦畔際で発生	単用処理 ピラクロニル剤やALS阻害剤を含む初中期一発剤 必要に応じ、手で除草	秋耕起	×
中	条間での発生 (ほ場内に広く発生)	体系処理 1回目：ピラクロニル剤やALS阻害剤を含む初中期一発剤 2回目：ALS阻害剤を含む中期剤	秋耕起	×
多 ～甚	ほ場全面に発生、または坪状に激しく発生	体系処理：上段と同じ	秋耕起	○

※調査時期は、中干し後の7月中旬

【2 留意事項】

- (1) 移植前に発生し生育の進んだ個体は、耕起、代掻きにより土中にすき込む、作業機の洗浄を徹底し、未発生ほ場への持ち込みを無くすといった耕種的防除も有効です。
- (2) コウキヤガラは大きくなると除草剤の効果が不十分となるので、特に体系処理の2回目防除は農薬登録の使用時期内で早めに使用します。
- (3) 水口や畦畔際からコウキヤガラの発生は始まります。発生が軽微なうちは、手での抜き取りが有効です。
- (4) 土中の塊茎量が多いと、前年無発生でもコウキヤガラが多発生します。中干し前までにベンタゾンを含む剤で防除を行い、次年度は有効剤での体系処理を行います。

担当研究室 岩手県農業研究センター 生産基盤研究部 水田利用研究室
〒024-003 北上市成田 20-1 TEL. 0197-68-4412 FAX. 0197-71-1081